

2019年7月 キューバ医療事情

下記情報は当地報道を抄訳したものです。詳しくは原文をご参照下さい。

【キューバ医療事情】

7月1日【14 y medio.com】

“アルテミサ県でデング熱患者が1日30人発生”

現在サン・クリストバル市はアルテミサ県の中で最もデング熱が流行し患者が発生している。サン・クリストバル市の公衆衛生当局はデング熱が流行しており、警戒している。7人は確定診断がついているが、20人以上が疑い例として入院している。

公衆衛生当局は40人を収容できる学校に入院できる病室を造り、デング熱が広がることを防ぐ。デング熱が疑われる患者は1日当たり18人～23人にのぼり、最近では30人に達している。サン・クリストバル市は、アルテミサ県の中で最も感染者数が多い市で、5月の1ヶ月間で68人、6月の最初の12日間で49人の患者が発生した。

7月8日【CIBERCUBA】

“キューバ小児科における低侵襲手術のための国立外科訓練センター設立に機材供与”

7月4日に供与された機材を用いて、ウイリアム・ソラー小児科病院でキューバ初の小児科低侵襲手術国立訓練センターを設立予定。視察に訪れた欧州腹腔鏡外科学会の小児外科医はキューバでは特に稀な手術となるため、シュミレーションが専門医の訓練に非常に重要であると述べた。ウイリアム・ソラー小児科病院の肝胆移植手術部門の責任者であるキューバ小児科学会会長はフランスの協会の支援に感謝した。

7月18日【CUBANET】

“フランスは海外領土でキューバ人医師を雇用することを承認”

13日フランス議会は、キューバ人医師に利益をもたらす可能性のある措置である、EU外の医師や医療従事者を海外領土で受け入れることができるようにする保健システムの改革案を承認した。以前はEUに属さない国の医師や医療従事者を雇うことは禁じられていたが、ガイアナだけ一時契約をすることが可能であった。当時からフランスの海外領土でキューバ人医師の雇用には技術的、言語的な問題があった。しかしこの度、医療砂漠と闘うためにキューバ人医師は仏領アンティル諸島に赴任する新しい機会が開かれた。フランス海外領土の島々においてキューバ人医師を雇用することは、10億ドル以上の収益が見込まれるためブラジルの「More Doctors」のプログラム終了後のキューバ政権にとって救済となるであろう。

7月22日【Juventud rebelde】

“キューバは、人口1000人当たり医師数は9人に達する”

キューバは10万人の医師を擁しており、歴史的に最多の医師数であり、人口1000人当たり9人は、このような指標では世界一である。革命の勝利以降、わずか3000人の医師がキューバに残ったが、ハバナ医科大学は最近の卒業をまでに37万6千人の専門家を養成した。アフリカとラテンアメリカを中心に141ヶ国からの3万5千787人の留学生を受入れた。小さな発展途上国としては偉業である。国家保健システムの48万5千人以上の医療従事者のうち、23万4千人が国内の様々な分野の保健機関で働いている。今年、医科大学から10000人以上が医療専門家として卒業し、そのうち1535人はキューバ以外の国からの出身者であった。また4000人以上は技師である。

7月23日【CUBADEBATE】

“ELAMを500人の医療専門家が卒業”

ELAM（ラテンアメリカ医科大学）で学んだ104ヶ国からきた約500人の学生が、23日に卒業する。保健省によるとフィデル・カストロが1999年11月15日に設立したこのプロジェクトによって100ヶ国以上から2万9千人以上が医師になった。

7月30日【CUBANET】

“ピナール・デル・リオ県でアフリカマイマイを確認”

ピナール・デル・リオ県ビニャーレス市プエルトエスペランサ町で体長12cmのアフリカマイマイが見つかった。キューバの中でアフリカマイマイが報告された14番目の県となった。